

## 名古屋大学太陽地球環境研究所創設 20 周年記念行事開催される

名古屋大学太陽地球環境研究所は、1990（平成2）年6月に空電研究所と理学部附属宇宙線望遠鏡研究施設とを廃止・統合して、太陽地球環境の構造とそのダイナミックな変動を研究する全国共同利用研究所として創設され、平成22年度で20年目の節目の年を迎えることとなりました。この20年間、4研究部門と1センターで新しい観測機器・システムの開発と建設、IT基盤とデータ解析システムの整備、観測研究領域の拡大、およびモデリング・ミュレーション解析における継続的発展を推進するのと同時に、全国共同利用研究所としての共同研究を広範囲に実施してきました。特に、近年では大学の独立法人化に伴い、領域横断的な共同研究プロジェクトの立ち上げによって目的明示型の組織的な共同研究も遂行してきました。その名古屋大学太陽地球環境研究所創設20周年記念行事が、平成22年11月11日（木）～11月13日（土）の3日間、野依記念学術交流館で開催されました。

第1日目の創設20周年記念式典では、松見豊研究所長の開会の挨拶、濱口道成名古屋大学総長、森田正信文部科学省研究振興局学術機関課長、西田篤弘宇宙科学研究所名誉教授、津田敏隆地球電磁気・地球惑星圏学会会長／京都大学生存圏研究所長の祝辞を賜わりました。その後、創設20周年記念シンポジウムに移り、研究所の歴代所長と所外研究者による「太陽地球環境研究所のこれまでの歩みとこれから」の招待講演がありました。記念式典とシンポジウムは大変盛況で学外出席者53名を含む160名の出席者がありました。夕方から創設20周年記念祝賀会を開催しました。祝賀会では藤井良一理事・副総長と廣田勇京大名誉教授の祝辞、加藤進京大名誉教授の祝辞と乾杯のご発声を頂いて始まり、交流と歓談、太陽研の創設と活動と将来に関して自由闊達な意見交換の時を持つことができました。

第2日目の創設20周年記念シンポジウムでは、午前中は研究所からの「太陽地球環境研究所の研究活動」現状と将来計画の講演、午後は所外の研究者から「太陽地球環境科学の将来と研究所に期待すること」の演題での研究分野の動向と大所高所からの提言と注文と期待のお言葉を頂きました。研究所教職員一同、先輩達の創設の趣旨とこれまでの活動を継承し、更に気持ちを引き締めて研究所の継続的な発展に努める義務があるとの決意を新たに持ちました。

第3日目は、創設20周年記念一般講演会「太陽とオーロラの謎を解く」を

開催し、アラスカ大学国際北極圏研究センター名誉教授）赤祖父俊一先生に「オーロラの謎」、当研究所の草野完也先生に「太陽の謎 ガリレオから未来へ」の演題で講演をして頂きました。出席者 224 名もの大変盛況な一般講演会となり、野依記念学術交流館 2 階大ホールでは参加者を収容しきれず、1 階にサテライト会場を設けて対応しました。出席者から、「太陽活動とオーロラ頻度と地球温暖化は関係がありますか」、「オーロラが光る高度の真空度はどれくらいですか」、「太陽はいつどうやってできましたか」、「太陽の寿命はあとどのくらいありますか」、「先生たちはなぜオーロラや太陽の研究をしようと思ったのですか」など大変興味ある質問が出され、講演者からも研究現場の迫力を感じさせる回答がありました。

また、この研究所創設 20 周年記念行事に合わせて、太陽地球環境研究所初代所長であった小口高先生著「オーロラの物理学入門」と同第 2 代目所長であつた國分征先生著「太陽地球系物理学」の教科書を発行する運びとなりました。太陽地球系科学分野の適當な日本語の教科書が少ない中、素晴らしい教科書を執筆して頂いたことに対して研究所から両先生のご尽力に深く感謝の意を表します。